

島根森林管理署

担当者
森林技術指導官:石井勝彦
地域林政調整官:大田勝也
TEL:050-3160-6130

- ▶ 島根県は、県土の78% (526千ha) が森林であり、高知県、岐阜県、長野県に次ぐ全国4位の森林県です。この内民有林は約94%で、残り約6% (29千ha) が国有林です。
民有林の人工林率は38%と全国平均46%に比べやや低い状況にあります。平成22年度から行われている新植支援事業 (県単) の効果により、造林補助事業による人工造林面積は増加しています。また、民有林の蓄積量は、30年前の3倍にもなっており、人工林の資源充実と県内の木材利用の推進により、伐採が進み、造林面積が拡大しています。
一方、国有林は、森林整備の推進により、国土保全、水源涵養等の公益的機能の発揮に寄与しています。また、三瓶山国有林、船通山国有林及び三ツ石山国有林などは、国立公園・国定公園に指定され、島根県を代表するレクリエーションの場として親しまれています。
- ▶ 島根県との地域林政連絡会議では、森林整備推進協定を締結している国立研究開発法人森林総合研究所を加えた3者により、平成26年度の地域課題の解決に向けた取組の総括を行い、平成27年度以降の第2次実施計画について確認を行い、更なる協調施策のために必要な、情報共有のシステム化について協議しました。
また、県内の国有林・民有林の林業施策の効率化を図ることを目的として、島根県、島根県林業公社、森林総合研究所並びに当署による4機関で、情報共有会議を開催し、各機関の森林整備の事業量等について情報の共有を行いました。
- ▶ 島根県内では、ニホンジカの生息数が増加傾向にあり、これまで被害が少なかった広島県境に近い市町で、被害が確認されるようになりました。このことから、島根県中山間地域研究センターとの連携を図り、研修会の開催、出現情報を相互に提供する取組等を行いました。



(4機関による地域林政連絡会議の様子)

効率的な林業施策の推進

【課題】 民国連携による施策の推進 (継続)

【取組状況】

- 国有林と民有林 (島根県、島根県林業公社、森林総合研究所) の林業施策の効率化を図るため、地域林政連絡会議を開催し、各機関の森林整備の事業量等について情報を共有しました。
- 平成27年度から松江市、江津市において木質バイオマス発電所が稼動し、安定的な木質バイオマスの供給に向けて、森林総合研究所と合同で、松江バイオマス発電所との意見交換、並びに発電施設の見学を行いました。
- 再造林コストの縮減に向け、コンテナ苗の生産状況等を把握するため、森林総合研究所と合同で、コンテナ苗の育苗状況の視察と併せ、生産者と意見交換を行いました。

【成果と今後の課題】

- 国有林、民有林の森林整備の事業量等を把握することで、連携に向けた足がかりとなった。
- 発電所との意見交換、発電施設の見学により、木質バイオマスの需要量、経済効果等について理解を深めることができた。
- コンテナ苗の育苗状況を理解することができた。今後は、運搬時における根鉢部分の保護、植え付け器具の改良等について検討を進めていきます。



(松江バイオマス発電所との意見交換の様子)



(コンテナ苗育苗施設視察の様子)

森林共同施業団地の推進

【課題】森林共同施業団地における民国連携の推進（継続）

【取組状況】

- 平成26年度の事業実績のとりまとめと、図示化を実施した。
- 「森林整備に関する覚書」を締結した、島根県、水源林整備事務所、島根森林管理署の三者により平成27年度以降の実施計画について協議した。
- 全ての協定相手方に対して、今後の団地のあり方や協調の方法、今までの事業の実績状況等、より具体的な取組を行うため、面談により意見の集約を行った。
- 「民国一体の管理経営の取組み」の対象地である「深野団地」について、資料の収集と試算等を行った。今後とも継続した検討を行うこととする。

【成果と今後の課題】

- 各機関の森林施業等のデータを一元化した森林GISの整備を継続。今後、森林GISを活用した路網整備、事業計画等の検討資料として活用予定。
- 21団地について平成27年度以降の実施計画を作成、計画に基づき事業の実行に努め、より協調できるよう、情報共有に努めることとする。
- 23協定のうち、2協定については、それぞれの協定者の事情により、実施計画の樹立に至らなかったため、今後の早期樹立を目指す。

【地域林政会議の様様】



シカ被害対策の推進

【課題】ニホンシカ被害の未然防止（継続）

【取組状況】

- シカによる森林被害の状況、被害防止対策等について、基礎的な知識を習得するため、島根県中山間地域研究センターの鳥獣対策グループ科長金森弘樹氏を講師に招き、関係職員、全森林官を対象に研修会を開催した。
- 国有林野等所在市町村長有志協議会等の各種会議において、各機関からシカ被害に係る情報の収集を実施。

【成果と今後の課題】

- 島根県中山間研究センターから、最新の情報が得られるようになった。また、関係機関で情報の共有を図るため、地域林政会議等の活用を推進することとしている。



（研修会の様子）

林産物の安定供給

【課題】木質バイオマスの供給体制の整備（継続）

【取組状況】

- 木質チップの生産状況等を把握するため、チップ生産者から聞き取りと併せ工場見学を実施した。
- 森林総合研究所と合同で、松江バイオマス発電所との意見交換、発電施設の見学を行った。
- 林産物の競争参加資格を取得していない事業体に取得を働きかけた。

【成果と今後の課題】

- 発電用チップ原木として使用できる品質の範囲を把握することができた。
- 発電所の稼動状況、木質チップの需要量等を確認することができた。
- 新たに2事業体が林産物の競争参加資格を取得した。



（木質チップ生産工場見学の様子）



（松江バイオマス発電所見学の様子）